



私たちは越後屋に宿泊しました。越後屋は越後出身の方が始められたのでしょうか。明治期の建物で、磨き込まれた階段、細い廊下、和室の障子、欄間など、そのまま残っています。高温、柔らかい湯質で、豊富な湯量が自慢です。主人も女将も素朴で、真面目。この風情に惹かれて「ピーター」もあるそうです。山爺夫妻とお別れするときに、頂上を見せてくれた黒姫山(2053m)の向こうの越後にもいつか是非行ってみたいと思いました。

帰り道には志賀高原の渋峠へのルートを選び、信濃インターに入りました。信州中野からは一般道に下りて、深まる秋の自然を目にしなが、志賀高原の山道を走りました。カーブが続き、のんきに見てはられないものの、紅葉の木々が日に映えて目を引きま。標高が高くなるにつれて、紅葉は少なくなり、白樺は丸裸になっていました。



渋峠の横手山(2307m)麓で休憩をとりました。そこで雲海に浮かぶ笠ヶ岳(2076m)が見えました。きれいな三角形の頂上です。雲海の雲が次々と流れ、景色を変えていき、なかなか素敵なもの。これを見る人々も多く、また、横手山登頂を誘うスピーカーの音声もあって、にぎやかです。

昔、高千穂の山奥で教会の修養会を行ったとき、早朝祈禱会を国見ヶ丘で行いました。その時初めて雲海を見ました。雲が消えると山々があちこちから頭を見せ「国見ヶ丘」の名称に納得したものです。2度目は富士山新五合目で濃い雲海の上に出て、まぶしかった記憶があります。

さて、渋峠から万座に下りました。「温泉で最高といったら万座でしょう」と言われた方がいます。その方のご意見を一度試してみたいと思ったからです。万座温泉に宿をとりました。ここは硫黄泉の源泉が4つあり、色がそれぞれ違っているので、それを楽しむ露天風呂があります。そこはなんと、混浴の露天風呂になっています。入口の女湯は湯の色が驚くばかりの黄色でした。そこから、混浴への通路を、女性たちは



「皆で行けば怖くない」とか言って、バスタオルを巻いてぞろぞろと行きました。男性はフェイスタオルで前を隠しています。黄、青、緑、クリーム色など、7つのお風呂があって、老若男女があちに入ったり、こちに入ったり、にぎやかなことでした。タオルを巻いているとはいえ、シャイな私は落ち着きませんでした。この温泉は送迎バスも充実しているようで、全国あちこちからやって来ている。ステッキをついている方々も温泉を楽しんでいます。万座温泉が最高かどうか、私は分かりませんでした。そう言えば、蕎麦もここが一番おいしい、と言われても一番と決められる味覚が私にはないのです。コーヒーも香りは好きですが、味をあれこれと言え舌がありません。残念です。夕食後には、ゆったりと女湯で、透明な温泉を楽しみました。



翌朝、いつものように早起きし、窓の外を見ると雪が降っていました。驚いてしまいました。標高1800mの天気は侮れません。チェーンは持っているものの、止むことなく降っている雪を見て、不安になりましたが、夫は雪見の露天風呂を楽しんだようです。朝食後には、除雪車が出て、雪もシャーベット状になって、チェーンの必要もなくなってきました。車の雪を払い落とし、ギアをローに入れて、

ゆっくり、ゆっくりスタートしました。慎重にソロソロと進みます。どの車も同じ感じです。山々や木々が雪をまわって、とても綺麗でした。天候も色濃く変化する秋の信濃路での興味深い初雪体験となりました。嬬恋村まで下ると、もう安心でした。家に向かってひたすら走りました。